



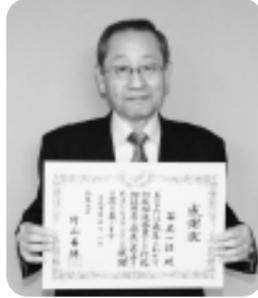
## 高齢者叙勲 旭日単光章 松本養一氏(三沢)

松本さんは、昭和38年から54年までの16年間仁多町議会議員を務められ、その間、厚生常任委員会副委員長、土木常任委員会委員などを歴任し、地方自治の発展と住民福祉の向上に貢献されました。  
また、昭和56年11月から平成4年9月までの10年10ヶ月間は町教育委員会委員として、平成4年10月から平成7年10月までの3年間は町教育委員会委員長として、教育の振興発展に尽瘁されました。  
これらをはじめとする多数の功績により、今回叙勲の栄に浴されました。

## 行政相談員として永年尽力

## 谷尻一徳氏に総務大臣から感謝状

前行政相談員の谷尻一徳氏(上阿井)に、総務大臣から感謝状が贈呈されました。  
谷尻氏は、行政サービスに関する相談の受付や解決のための助言などを無報酬で行う町民の身近な相談相手「行政相談員」として、平成19年4月から平成23年3月までの4年間、行政経験を活かした相談業務に尽力されました。



## 元気な演奏でエールを贈る三成保育所「げんき太鼓」



## 仁多乃炎太鼓など8団体 被災地に音楽でエール

被災地復興の気持ちを届けようと、「頑張ろう日本! 東日本大震災復興支援チャリティ演奏会」が五月三日、奥出雲太鼓祭実行委員会が主催し、カルチャープラザ仁多駐車場で開催。募金の呼び掛けも行われました。  
実行委員長の内田幹雄さんは「微力だが支援の手を差し伸べたいと思い開催した。この気持ちを被災地に届けられるような演奏をしたい」とあいさつ。演奏会では仁多乃炎太鼓をはじめ、町内外で活動

する八つの音楽団体が演奏を披露し、どの団体でも復興への願いを込めた、前向きな曲が演奏されました。  
一番手の三成保育所「げんき太鼓」の十二人の園児たちは、演奏の最後に「私たちも応援しています。前に向かって進んでいきましょう」と被災地にエールを贈りました。  
会場に訪れた約五十人の観客は、復興への願いを胸に、演奏を楽しむとともに演奏者と一緒になって会場を盛り上げていました。

## みんなのサーブで始球式



## 奥出雲町ジュニアバレーボールクラブが発足

町内で初めてとなるバレーボールのスポーツ少年団「奥出雲町ジュニアバレーボールクラブ」の発足式が四月二十六日、町民体育館で行われました。  
同クラブは、三月から体験活動や用具整備を行うなど準備を進め、小学一年生から六年生までの二十八人をクラブ員として、発足の日を迎えました。  
発足式でクラブ代表の内田雅人さん(三成)は「バレーボールは気持ちでつなぐスポーツ。活動を通じて、互いに助け合いながら、絶対に諦め

ない気持ちを育ててほしい」とあいさつされました。  
また、クラブ員を代表し、細木仁さん(三成小六年)が「クラブ発足に関わった皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、一生懸命練習をし、このクラブの名前を広めたい」と誓いの言葉を述べました。  
この後、クラブ員全員で、サーブによる始球式を行い、発足を祝いました。  
同クラブは、週二回(火・金曜日、午後七時から八時三十分)の練習を行い、最初の目標である、県大会での初勝利を目指します。

## 安全と観光振興を願い

## 鬼の舌震 川開き安全祈願祭

名勝「鬼の舌震」の川開き安全祈願祭が四月二十六日、玉日女神社参道で行われ地元団体や観光協会など、関係者約五十人が、シーズン中の安全と観光振興を祈願しました。  
観光協会会長の井上町長から、「鬼の舌震」は町の大きな地域資源であり、恵まれた自然の宝物。つり橋建設やパリアフリー化を進め、多くの方に気軽に来て、楽しんでいただけるよう頑張りたい」と

あいさつがありました。  
神事が終わると玉日女神橋から御神酒流しを行い、川辺では井上町長と十人の三成幼稚園園児が、ヤマメ百二十四匹を放流しました。  
園児たちは、自分たちが放したヤマメが泳ぐ姿を見て歓声を上げて喜んでいました。  
この鬼の舌震には、大型連休や紅葉シーズンを中心に年間約十万人の観光客が訪れます。雄大な渓谷が織り成す自



ヤマメを放流する三成幼稚園児たち

然の風景は毎年多くの人を楽ませていきます。

## 爽やかな春風に吹かれ 船通山でカタクリ登山

毎年恒例となった「船通山カタクリ登山」が四月二十九日に行われ、多くの登山客が訪れました。  
カタクリはユリ科の多年草で開花するまでに七年を要し、花びらを反り返らせる独特の姿と、爽やかな薄紫色が登山客の人気を呼んでいます。  
例年、この時期に見頃を迎えるカタクリですが、この日は冬の大雪の影響で、お目当てのカタクリの群生を見るこ

とはできませんでした。  
しかし、保全活動に取り組んでいる横田山の会による自然観察会やカタクリの生態を紹介する紙芝居、山頂からの大山・日本海の眺望など、澄み渡った青空と爽やかな春風に吹かれながら、登山客は春の船通山を楽しんでいました。  
五月の連休後半には、少し遅めの見頃を迎え、かわいらしいカタクリの花々が、登山客の目を楽かせていました。

## 日本刀の魅力を紹介

## 刀匠小林一門展開催

町内に活動の拠点を置き刀工活動を行っている小林一門の企画展が四月二十九日から五月八日の間、奥出雲たたらと刀剣館で開催されました。  
会場には、小林貞永刀匠作の刀をはじめとした一門歴代の作品二十六振り、作刀に使用する道具などが展示されました。



迫力ある抜刀実演



刀研師による研磨の実演

また、刀身彫刻師の柏木重光さん(米子市)、刀研師の柏木良さん(米子市)による彫刻と研磨の実演も行われ、来場者は間近で見学できる貴重な機会とあって、質問をしながら熱心に見入っていました。  
中庭では、島根抜刀会による抜刀実演が行われました。ござ一畳分を巻いた棒を本物の日本刀で斬る実演は迫力満点。来場者からは、歓声と拍手が起こっていました。



山頂でくつろぐ登山者